未来を拓く無機膜 環境・エネルギー技術シンポジウム 2022/11/2



膜反応器を用いたCO₂資源化の可能性



(芝浦工大工) 野村幹弘



- 二酸化炭素分離膜
 - ゼオライト膜
 - シリカ膜
 - 二酸化炭素吸収膜
- ・ 膜反応器の概要

• 二酸化炭素供給型膜反応器

膜素材としてのゼオライト



二酸化炭素分離性能

>CO₂分離膜



高透過性を示すシリカ基材上ハイシ リカCHA膜の開発

検討項目

- ・合成温度の検討
- ・結晶化ゲルへの酸添加
- ・結晶化ゲルへのAI添加
- ・合成時間の検討





<u>CHA種結晶¹⁾</u>

<u>CHA膜1)</u>



膜性能評価方法

<u>単成分ガス透過試験</u> 使用ガス:H₂, N₂, SF₆, CO₂, CH₄ 透過温度:25℃

<u>混合ガス透過試験</u> CO₂/CH₄: 50/50 mol% 透過温度: 25~200 ℃ XRD: KEYENCE,VE-8000 SEM: Rigaku,SmartLab



合成時間の影響



Fig. 単成分ガス透過試験結果(室温)

16 h 合成において、CO₂透過率7.4×10⁻⁷ mol m⁻² s⁻¹ Pa⁻¹、CO₂/CH₄透過率比 109のCHA膜を得た。8、12h合成においてもCO₂/CH₄で高い分子ふるい性を示す 膜を得ることができた。分離性能には合成時間が大きく影響する。

Table 各ガス透過率比

合成時間	H_2/SF_6	CO_2/CH_4	CO_2/N_2	N_2/CH_4
8h	548	109	5.0	21.8
合成時間	H_2/SF_6	CO ₂ /CH ₄	CO_2/N_2	N ₂ /CH ₄
12h	352	92	6.5	14.2
合成時間	H_2/SF_6	CO ₂ /CH ₄	CO_2/N_2	N ₂ /CH ₄
16h	591	109	12	9.0

CO₂/CH₄混合ガス透過試験



16h合成のCHA膜ではCO2透過率4.2×10⁻⁷ mol m⁻² s⁻¹ Pa⁻¹、CO2/CH4分離係数 52を示した。合成時間が長いほど結晶性が大きく、分離性能は向上した。



- 二酸化炭素分離膜
 - ゼオライト膜
 - シリカ膜
 - 二酸化炭素吸収膜
- ・ 膜反応器の概要

• 二酸化炭素供給型膜反応器

対向拡散CVDシリカ膜









ротър

製膜方法とキャラクタリゼーション

Ⅱ In situ分析

📕 前駆体構造

四重極質量分析計 (M-201QA-TDM. CANON ANELVA Corp.)		Precursor	
加速電圧 30eV 質量雷荷比(<i>m/z</i>) 1 - 200	Ŗ	MTMOS	
	H ₃ CO-Si-OCH ₃	PrTMOS	
■ カス透過試験	о́сн₃	APrTMOS	-(
Gas permeation test	Fig. Precursor structure	CPrTMOS	
Gas He, H ₂ , CO _{2,} Ar, N ₂ , CH ₄ , C ₂ H ₄ ,		TFPrTMOS	-
C_2H_6 , C_3H_6 , C_3H_8 , SF_6 Temperature Deposition temperature		HTMOS	
<u>Permeance</u> <u>Selectivity</u>			
$P_i = \frac{F_i}{A \times \Delta p} \qquad \qquad a_{i,j} = \frac{P_i}{P_j}$	P_i : Gas permeance [mol m ⁻² s ⁻¹ Pa ⁻¹] F_i : Flow rate of permeate [mol s ⁻¹] A: Membrane area [m ²] Δp : Pressure difference [Pa] $a_{i \ j}$: Ideal selectivity [-] M: Molecular weight d: Pore or molecular size		
Pore size estimation (NKP method ¹⁾)			
$\frac{P_i}{P_{He}} \sqrt{\frac{M_i}{M_{He}}} = \frac{\left(d_p - d_i\right)^3}{\left(d_p - d_{He}\right)^3}$			

R

 $-CH_3$

 $-C_3H_7$

 $-C_3H_6NH_2$

 $-C_3H_6CI$

 $-C_2H_4CF_3$

 $-C_{6}H_{13}$

MTMOS 250°C 蒸着



シリカ源構造と膜性能



Fig. Membrane permeation performance (deposited at $175^{\circ}C$)

前駆体構造によるガス透過性の差異はほとんど見られず、オゾンの濃度が高い条件が蒸着が進行した。CO2透過の活性化エネルギーは低かった。

CVDシリカ膜によるCO₂/CH₄混合ガス分離



混合ガス分離性能は供給する CO_2 ガスの濃度の影響を受け、 低濃度 CO_2 ほど CO_2 /CH₄分離係数が高い性能を示し、最大22を示した

CO2分離性能のまとめ



当研究室の開発膜は、既報のアッパーバウンドと同レベルである。 $CO_2透過率5 \times 10^{-6} \text{ mol m}^{-2} \text{ s}^{-1} Pa^{-1}, CO_2/CH_4透過率比100が現状世界のトップレベルである。$

1) Xin Yu, Jour. Membr. Sci., 511 (2016) 219-227

交互供給処理による製膜



分子量が大きい前駆体を使用した膜が得られる理由として、基材細孔への凝縮が 関わる可能性が高い、反応種の交互供給処理にてH₂/SF₆ガス透過率比 790を示した

CVDと交互供給の比較



Fig. 前駆体アルキル基長さ150℃蒸着膜ガス透過性能の関係

いずれの前駆体も置換基長さが長いものほど透過率の低下が起こりやすい傾向がみられた 有機置換基を量を増やした機能性膜の低温下での製膜が可能となる

150°C ,30-90 min

蒸着

150°C蒸着膜性能比較(交互供給)



交互供給法にて、CO2透過率4.1×10⁻⁷ mol m⁻² s⁻¹ Pa⁻¹、CO2/N2透過率比20の膜が得られた

0.6



- 二酸化炭素分離膜
 - ゼオライト膜
 - シリカ膜
 - 二酸化炭素吸収膜
- ・ 膜反応器の概要

• 二酸化炭素供給型膜反応器

高温吸収剤(Li₄SiO₄)

 $Li_4SiO_4 + CO_2 = Li_2SiO_3 + Li_2CO_3$



⇒500°C~600°C程度の高温で可逆的な反応

山田 和矢, 中川 和明, 萩原 喜一, 東芝レビューVol.59No.1(2004)





研究コンセプト



Fig. 代表的な気体の分子径と各種ゼオライトの細孔径





粉末を用いた検討(SEM)

ゼオライト



a)Silton MT-100種結晶(粉砕後) 倍率3000倍





TMPS-1.5種結晶(粉砕後) 倍率5000倍



リチウムシリケート(Silton MT-100由来) 倍率5000倍



リチウムシリケート(TMPS-1.5由来)

倍率5000倍

TMPS由来のリチウムシリ ケートは微小な構造を保つ

24

粉末を用いた検討(XRD, TG)



25









炭酸塩コーティングにより、650℃でCO₂/N₂選択性1.74、 CO₂/H₂選択性2.65を示す膜の作製に成功した。

二酸化炭素分離膜~まとめ

- CHA膜
- シリカ基材を用いることで、CO₂透過率4.2×10⁻⁷ mol m⁻² s⁻¹ Pa⁻¹、CO₂/CH₄分離係数52を示した。基材のアルミニウムを 除去することで透過性能が向上することが示唆された。
- CVDシリカ膜
- 新規製膜法である交互供給法にて、CO₂透過率4.1×10⁻⁷ mol m⁻² s⁻¹ Pa⁻¹、CO₂/N₂透過率比20の膜が得られた。
- 二酸化炭素吸収膜
- Li₂CO₃とK₂CO₃の炭酸塩でコーティングすることにより、膜の 緻密性が向上した。650℃でCO₂/H₂選択性は2.65と、二酸化 炭素選択性を示す膜の作製に成功した。



- 二酸化炭素分離膜
 - ゼオライト膜
 - シリカ膜
 - 二酸化炭素吸収膜
- 膜反応器の概要

• 二酸化炭素供給型膜反応器

Membrane reactors





- 二酸化炭素分離膜
 - ゼオライト膜
 - シリカ膜
 - 二酸化炭素吸収膜
- ・ 膜反応器の概要

• 二酸化炭素供給型膜反応器

膜分離と二酸化炭素資源化

32



膜反応器と触媒配置

■ 膜反応器

▶ 反応と分離を同時に行う効率的なプロセス



➢ Distributor (分配)型 …膜の内外に異なる反応種を供給

- ✓ 膜の厚み方向に対してガスを分散供給 →反応量の制御・熱暴走の抑制
- ✓ 研究例が少なく、学術的価値が高い



■触媒配置





- 〇・充填する金属重量の設定が容易
 - ▲・触媒の熱伝導率が低く内部が加温されにくい
 ・圧力損失によるガスの逆拡散

② <u>触媒金属の水溶液を**基材へ含侵させる**</u>



反応器試験 / 対向拡散CVD 実験条件

■基材反応器試験条件

シリカ蒸着前の多孔質アルミナ基材で 反応器試験を行った

Table. 実験条件

CO ₂ / N ₂ 供給量	25 / 25 mL min ⁻¹	
H ₂ 供給量	100 mL min ⁻¹	
触媒 -担持-	Ni(NO ₃) _{2 aq} 2.5M 理論担持量 0.25g	
触媒 -充填-	Ni(NO ₃) ₂ / γ-アルミナ(20wt%) Ni(CH ₃ COCHCOCH ₃) ₂ /γ-アルミナ (20wt%) 各2.0g	
分析方法	ガスクロマトグラフィー	
反応温度	300∼400°C	

■ 計算式

$$Conversion[\%] = \frac{F_{CO_2}^{Feed} - F_{CO_2}^{in} - F_{CO_2}^{out}}{F_{CO_2}^{Feed}} \times 100$$
$$Carbon \ balance[\%] = \frac{F_{CH_4}^{in} + F_{CO_2}^{in} + F_{CO}^{in}}{F_{CO_2}^{Feed} - F_{CO_2}^{out}} \times 100$$

■ CVD条件 Precursor R R MTMOS -CH₃ H₃CO-Si-OCH₃ -CH₃ OCH_3 **DMDMOS** -CH₃ Fig. Precursor structure HTMOS $-C_6H_{13}$ 製膜温度 450°C **PhTMOS** $-C_6H_5$ シリカ源濃度 1.0, 2.0 mol m⁻³ DTMOS $-C_{10}H_{21}$ キャリアガス 200 min-1 酸化剤流量 200 mL min⁻¹ **APrTMOS** $C_3H_6NH_2$ 蒸着時間 5-60 min ■ 計算式 ガス透過率 理想選択係数 $P_i = \frac{F_i}{F_i}$ $a_{i,i} = \frac{P_i}{I}$

$$A \times \Delta p$$
 P_j

 P:
 透過率 [mol m⁻² s⁻¹ Pa⁻¹]

 F_i :
 透過速度 [mol s⁻¹]

 A:
 膜面積 [m²]

 Δp :
 供給圧力 [Pa]

透過率比 [-]

a:

アルミナ多孔質基材-担持-





Fig. 反応器試験後の基材

二酸化炭素転化率は反応温度上昇と共に向上した。
 最大転化率は400°Cで54%であった。
 二酸化炭素メタン化反応は発熱反応なので、触媒の反応律速と考えられる。
 ・炭素収支は、温度上昇に対してわずかに減少した。
 温度上昇による炭素析出の可能性がある。

アルミナ多孔質基材-充填-



 Ni(NO₃)₂触媒を用いた反応器試験において二酸化炭素転化率は反応温度上 昇と共に向上し、400℃で最大83%を得た。

- ・Ni(CH₃COCHCOCH₃)₂触媒では、二酸化炭素転化率は70%程度で一定。
- ・両試験において、GCにて触媒担持反応器試験では見られなかったCOの発生
 を確認。→触媒量増加による副反応の可能性

膜反応器~まとめ

・充填型・担持型の2タイプの触媒配置による二酸化炭素メタン化基材反応器試験を行った。

 ・担持型において、反応温度と転化率には触媒の 反応律速による顕著な正の相関が見られた。

 二酸化炭素吸収膜を用いることで、水素透過を 抑制したい。